

海 人



唐桑半島 折石の風景

あいさつ

宮城県漁業士会長 鈴木直光



会員の皆様には豊かな漁村、活力ある地域づくりを目指し、毎日生産に励まれていることと存じます。また、漁業士会の事業に対しまして多大な御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、我々生産者は消費者に対し、安全で品質の良い水産物を食べていただくため、衛生面やそれに付随する環境面での問題点を解決していく必要があります。

このため、会員の皆様には漁業士会等が開催する研修会や交流会に積極的に参加され、技術の向上や情報の収集を図りながら、お互いが協力し合っていることを目指しています。

平成十二年の八月には農林漁業の担い手が集まり、環境保全をテーマとした「一次産業交流会」が開催されました。交流会では他産業の方々がどのような意見を持っているか、また、実行しているか話し合い、大変有意義な時間を持つことができました。水産業だけでなく、一次産業全体の発展を図るため、今後とも交流会を継続していきたいと思っています。

最後に、関係機関の皆様の御協力と御理解をいただき、深く感謝いたしますとともに、今後とも変わらぬ御支援を申し上げます。会報発行の挨拶といたします。

（平成十二年度漁業士交流學習活動事業）

平成十二年七月十日から十二日の三日間、漁業士七名と水産業改良普及員三名が、カキの消費拡大や水産物流通の新しい取り組みを研修するため、香川県内を研修してまわした。研修では、鴨庄漁業協同組合（志度町）で行っている「カキ養殖オーナー制度の取り組み」や、牟礼漁業協同組合（牟礼町）の「カキ焼き食べ放題の取り組み」など新しい消費のあり方のほか、香川県漁連が事務局となっている「シーフードかわ21」の事業内容や香川県水産試験場で栽培漁業の取り組みについて見せていただきました。



鴨庄漁協の前で記念撮影

参加者の研修報告・感想

木村喜久雄（鳴瀬町漁協）
鳴庄漁協の「力キ養殖オーナー制」

「度」の取り組みは、平成八年にスタートし、平成八・九年オーナー数三百名、カキ本数千百本だったのをピークに年々下降し、今年の申し込みはオーナー数百二十六名、カキ本数五百四十七本になり、県内外から申し込みを受けていたのを手間がかかることなどから県外はとりやめたことでした。

養殖業者の協力体制では、自分たちの仕事の兼ね合いからなかなかうまくいかないように、二名の協力者しかいないとのことでした。自分がいメージしていた「オーナー制度」は、年間の仕事のサイクルの中で、オーナー自ら種の挟み込み、吊し、水揚げまで行っているかと思っ、水揚げできず、それが全然なく浜取引だけと聞き、残念な気持ちでオーナーがなくなつた原因がここにあるのではないかと思ひました。

今回の研修を終えて、自分たちの漁協でもノリ、カキの養殖、アサリの観光事業を行っていることから他人事ではなく感じてきました。

小野悦夫（宮戸漁協）

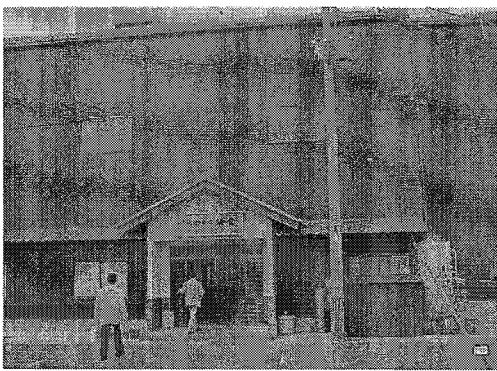
香川県はハマチ、ブリ、カンパチの養殖が盛んで、香川県漁連ではそれらの魚を買取り、販売するシステムになっています。

漁連では、養殖日誌を付けてもらったり、餌管理などについても検査を行い、安全シールを貼って品質向上に努めているところに感心しました。

また、シーフードかがわという会社を設立し、ミニ水族館を思わせる「おさかなシャトル」で一般の人たちにお魚の知識を親しんでもらえるよう、クイズや料理教室など全国各地

のイベントに参加しているとのことでした。

今後、私達も含めた生産者が生き延びていくためには、目新しいことにチャレンジしたり、発想力を豊にし、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいかなければならないと考えさせられました。



カキ焼き食べ放題の店(牟礼町)

長南 正義（塩釜市浦戸東部漁協）
今回の研修で、牟礼漁協の「力キ
焼き食べ放題」などの視察を行いました。

「力キ焼き食べ放題」は牟礼漁協の組合員が自宅の倉庫を改造して、一般の人たちが焼いた力キを食べられるようにしたもので、今では県内を問わず、阪神地方に住む人も固定客になつていくとのことだ。

始めるきっかけになったのは、プロレスの巡業が当地に訪れた際、レスラーがバーベキューを楽しそうに

しているのを見たことがヒントとなつたとのことで、現在は七、八軒が「カキ焼き食べ放題」を行っているそうです。

また、宮城と広島産のカキでは広島産が甘いとの話がありました。これは宮城産カキが四国まで流通していないため、広島産に慣れた人との相違によるためだなど思いました。

小さなきつかけから一つの産業で発展した経過を見て、私達の地域でも応用できるものがあるかどうか、普段の生産活動を検証して行きたいと感じました。

鈴木 公義（女川町漁協）

先日、小学校六年生の娘が宿題で日本の都道府県と県庁所在地を覚えていました。恥ずかしながら、私はその時香川県が宮城県の三分の一の広さしかない非常に小さな県だということに気が付きました。無論、海岸線もそれなりしかないのです。

れて、香川県では水産の面で決して恵ま
 力キ養殖オシナー制度、力キ焼き食
 べ放題、そしてシーフードがわ2
 1等の取り組みが行われていました。
 「どうやって高く売るか。どんな
 付加価値を付けるか。印象をいつも真剣
 にきましている。香川という印象を強く環境
 に恵まれている。我々が彼らの意気込込
 みに見習えば、二十一世紀の宮城の
 水産業は明るいものとなるでしょう。

遠藤 昭吾（志津川町漁協）

今回の視察研修では、鴨庄漁協のカキ養殖オーナー制に興味がありました。現実には様々な問題があるようでした。

牟礼漁協では、あまり知られていないカキ焼きと言う発想は良かったと思いましたが、消費者のニーズを考えた場合、大都會を控えた地域であり、お客さんには心配ありませんし、家ではカキ焼き等手軽に出来ないことから、将来性があると思います。また、牟礼漁協のカキはすべて加熱用ですが、客に出すカキや、おみやげ用に販売するカキのために、浄化設備が個人としては完全に近い程度に備わっていて、行政や組合に頼らず、自ら努力していることに感心しました。我々同業者として、大いに見習うべきであると思いました。

終わりに今回企画された関係者の方々に對して厚く御礼申し上げます。

阿部 松之助（歌津町漁協）

今回、漁業士交流活動の香川県視察研修に、六名の漁業士の皆さんと参加することができました。

視察先は、香川県の香川県漁連と、カキの販売でユニークな方法で一味違う志度漁協と鴨庄漁協、香川県水産試験場を訪ねました。

中でも、香川県漁連の活動が印象的でした。宮城県ではとくに顔の見える漁連で、日頃漁連の活動に対しては漁民として、あまり関心を持っていませんでした。今回、香川県漁連の活動を初めて知ることができ、漁連が漁協組織の上部団体として果たす役割が、いかに大事な事であるかを感じました。

また、香川県漁連の魚食普及活動を見聞きする事により、このような取り組みにより、明日の漁業を切り開いていける様な気がし、我々の漁業士活動も盛んにしなければならぬ様な思いがしました。

小松 勝典（大島漁協）

養殖オーナー制に以前から関心が

あり、鴨庄漁協のカキ養殖オーナー制に期待していましたが、現状は難しいようでした。

牟礼漁協のカキ焼き食べ放題は固定客をつかみ、軌道に乗っていましたが、機会があればシーズン中の現場を見てみたいと思いました。

水産試験場では、ハマチ養殖を行う各漁協青年部では、顕微鏡で毎日赤潮を監視しているという話を聞き、宮城県でもワカメ、ホタテ、カキなど作り育てる漁業が盛んなので、芽や幼生を見るために一漁家に一台顕微鏡を持ち、養殖物の管理を自ら行う必要があると思いました。

香川県漁連では、「おさかなシャトル」や魚をキャラクターにしたキールホルダーなど、アイデアに富んだ活動が印象的でした。

香川は商圏が大きく交通の便も良く、地の利に恵まれています。それに比べこちらは不利ですが、立ち後れと言わなければならない、情報をつかみそれに對する働き方が必要だと思います。



香川県水産試験場の試験生け簀

東北・北海道ブロック漁業士研修会について

宮城県漁業士会会長 鈴木 直光

今年のブロック研修は、秋田県男鹿温泉で、北海道及び各県の漁業士と担当者六十人が集まって開催されました。

一日目の各道県の漁業士活動紹介では、菅原勝副会長から宮城県の活動報告が紹介されました。各県の漁業士とも行政や漁協からの認知度が低く、活動しても地元の評価が得られ、漁業士の地位向上を図るような施策を推進してほしいとの要望が出されましたが、私は漁業士の側からしていくことが必要ではないかと思えます。

その後のパネルディスカッションでは各道県とも環境を守るため、植林に力を入れていると、このことで、異業種との連携が目立つようになったことが印象に残りました。私が報告した一次産業交流会も、これからの漁業士活動に新たな道を示したもので、漁業士の興味を引いたようです。

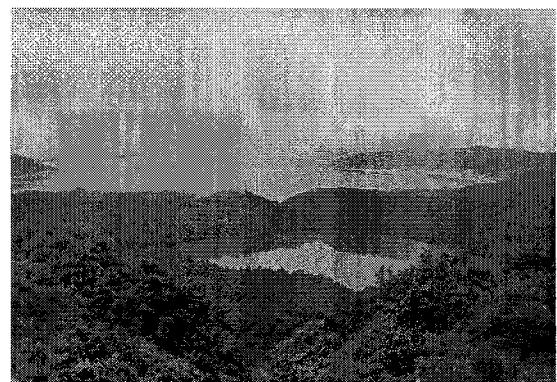
また、宴席を囲んだ交流会では、研修会に集まった漁業士の方々の色々な話が聞けて大変有意義でした。

二日目の視察は男鹿半島を半周し、秋田県唯一の内湾である「戸賀湾」と火口湖「二ノ目潟」を見学し、景観と水族館の両方を楽しめる「秋田県水族館」を見学し、二ノ目潟の田舎水産振興センターで行われた秋の収穫祭を見学しました。

なお、来年の研修会は岩手県で開催されますが、再来年は宮城県が会場になることですので、皆様の御協力をお願いします。



パネルディスカッションで



戸賀湾の全景(手前は二ノ目潟)

指導漁業士 阿部 悟
(石巻市東部漁業協同組合)

近年、カキ養殖において、親カキの死滅や種ガキの変異、また、食中毒につながるSRRSV（小型球形ウイルス）、他の雑菌類、貝毒など色々な問題が起きています。これらの原因については、まだ分からない部分も多いわけですが、やはり、海が少しずつ汚れていてカキに影響を与えているように思われます。

マスコミなどの報道でも分かっていたのですが、角田先生の話によれば環境ホルモンは何種類もあり、海底に堆積したり、河川水にも含まれていて、食物連鎖によって魚などに蓄積されるということでした。

我々が養殖を行っていく上で、川は栄養分の供給源として絶対に必要なもの。河川環境を守るためには農業廃水、家庭雑排水、その他のゴミなどがそのまま廃棄されないよう、早急に下水道の完備が必要だと思ひます。

また、漁業者も漁獲の際に出るゴミや漁業資材の適正な処理を自ら行うべきだと思います。私の所属する漁協では、毎年二月と六月に海底清掃、海底耕耘を行っています。それだけでなく海をきれいにしていくことは困難です。水揚げの時のゴミや漁業資材などは海に捨てずに陸まで持ってくるよう心がけること。また、ゴミの焼却施設を整備することも必要です。

中部地区学習会開催状況

▼**北部支部**

松岩地区での活動について

指導漁業士 斎藤 孝正
(松岩漁業協同組合)

松岩地区では、主にワカメ、コンブ、ホタテの養殖を行っています。漁場は気仙沼湾の奥部で、近くに大川の河口もあり、漁場環境としての条件はあまり良くありません。

そこで、二名の指導漁業士が中心となり、新たな養殖種の試験に取り組んでました。その結果、平成四年から始めたトリガイ養殖にある程度期待が持てるようになりました。



サケ海中飼育の様子

現在新たな養殖種の試験にも取り組んでいます。残念ながらここで紹介できるほどの成果はまだ得られていませんので、長年継続しているサケの海中飼育放流について紹介します。

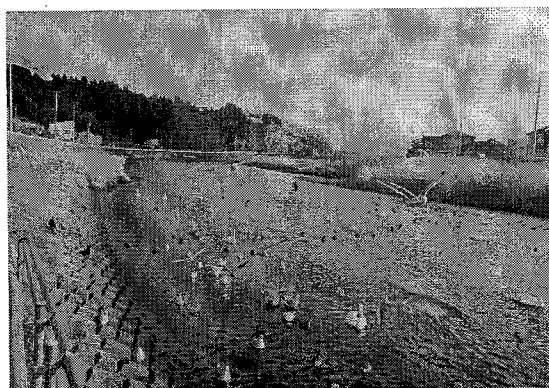
まず、サケの海中飼育放流について説明します。サケの稚魚は普通一グラム位で河川に放流されますが、海中の生け簀でさらに三グラム位にまで育ててから放流することで、その後の稚魚の生残率や回帰率の向上を期待するものです。

毎年二月、気仙沼鮮生産組合のふ化場で育てられたサケの稚魚約百万尾が、前浜地先の海面に設置した生け簀三台に搬入され、約四十日間飼育します。この期間中、私達は交代で給餌や網の掃除などの世話に当たります。写真は、去年の二月、ふ化場から運ばれたサケの稚魚を生け簀に移しているところです。飼育中の無事を祈って御神酒を注いでいます。

北部支部の紹介

漁業士会北部支部は、今年度新たに三名の漁業士が誕生し、青年漁業士十六名、指導漁業士十七名の合計三十三名で組織されています。

北部支部では、昨年度から隣の岩手県漁業士会大船渡支部との交流会を行っています。また、会員は地元の青年研究会や婦人部活動への支援や、地域のイベントに積極的に参加するなど、地域水産業の発展を願いながら活動しています（イベント紹介は最後のページに記載）。



水鳥が遊ぶ冬の大川

大川は、サケの遡上数が県内一といふことは皆さんもご存じのことと申します。私達の活動がこの一助となつてゐると思ひつつ、今年もまた海中飼育の準備に取りかかる時期となりました。

※※※一次産業交流会開催される！！※※※

<宮城県漁業士会>

県の機構改革によって、農林漁業の担い手による団体事務局が一つの課に集約されたことを受け、宮城県漁業士会や宮城県漁協青年団体連絡協議会から「農林漁業の担い手による交流指導農業者会、青年農業者会、宮城県農業者研究会連絡協議会」となる開催に向けての打合せを経て、県としては初めての交流会が平成十二年八月一日から二日の二日間、登米町と志津川町を会場として開催されました。交流会は農林漁業の担い手約四十人が参加して行われ、①県産材を利用した「登米町役場」②登米町森林組合の管理する「次世代に引き継ぐ広葉樹造林地」③指導農業者が経営する「菊栽培」④志津川町高度海浜利用センターで行われている「アワビ、ヒラメの中間育成（栽培漁業）」等といった現地視察のほか、共通の話題である環境を主要なテーマとして総合検討会が行われました。

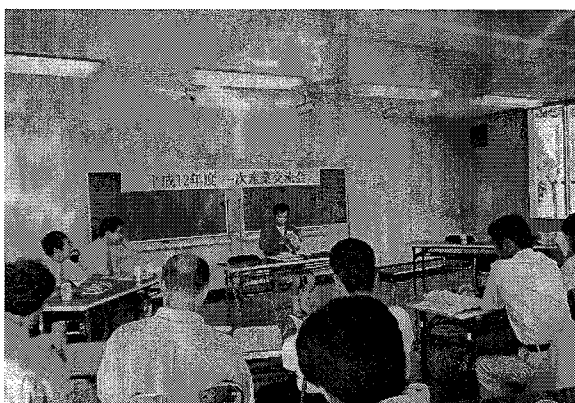
総合検討会では、参加者より「森林が環境保全に果たす役割の大きさの割に林業の現状は深刻であり、利用者のモラル向上をアピールする必要がある」、「一次産業はやりがいのある仕事。誇りを持って行うべき」といった意見のほか、「子供たちへの体験教育に積極的に協力することとが後継者を育てていくこととなる」等、環境問題から後継者の確保まで活発な意見が交わされました。



中間育成されているヒラメを見る

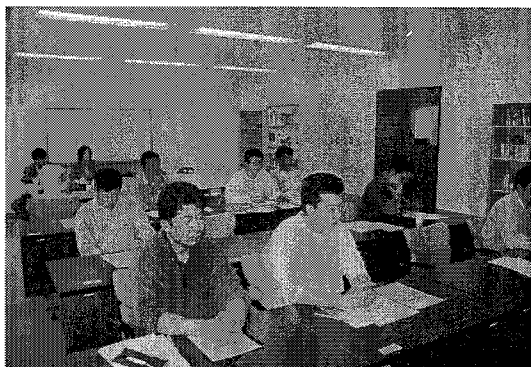


広葉樹造林地の中を歩く



総合検討会(座長は内海信吉青年漁業士)

また、今後の交流会についても農林漁業者でネットワークをつくり、力を合わせて行きたいという全員の意見を受け、各参加団体で継続する方向で検討して行くことになりました。



熱心に聞き入る受講生

水産研究開発センターを会場として開催された平成十二年度青年漁業士養成講座において、高橋文生会長(当時)が講師として出席し、受講生に応援のエールを送りました。

講義の中では、「漁業士は若い人を指導する立場であるが、人を指導する前に自分を磨こう。漁業士会の研修事業に積極的に参加してほしい。ものづくりには他の意見を聞きながら行うことが重要である。そしてこの点を意識してほしい。皆さんはこれから活動に必要ないかなど、今後の活動に大いに期待していることな

た。が話され、参加した受講生は、先輩の意見に熱心に耳を傾けていました。

なお、青年漁業士養成講座を受講した全員が平成十二年度青年漁業士として認定されました。

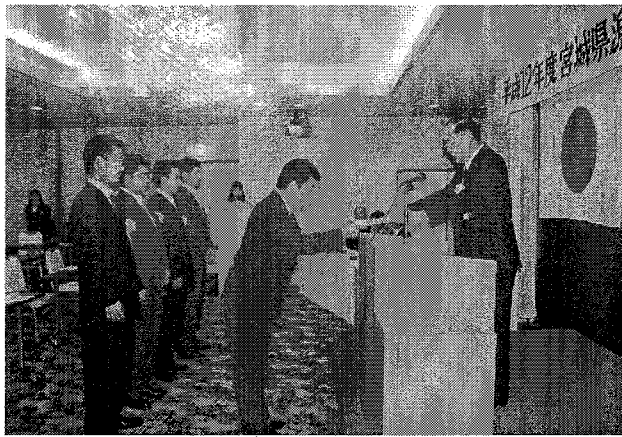
漁業士として期待すること

(青年漁業士養成講座)

平成12年度宮城県漁業士認定証交付式が開催されました！

さわやかな秋晴れが広がった平成十二年十月十日に宮城県漁業士認定証交付式が仙台市勾当台会館において開催されました。今年度は指導漁業士二十五名、青年漁業士十三名の計三十八名が新たに認定されました。この中には宮城県では初めてとなる女性の漁業士も五名含まれており、これからの漁業士活動に新たな風を吹かせてくれるものと期待されます。

なお、認定証交付式では十五名の漁業士が参加し、産業経済部の渡辺次長から認定証が手渡されました。



青年漁業士に認定証が手渡される

※※新しく認定された漁業士の紹介※※

○指導漁業士
 島山 政則(唐桑町漁協・カキ、ホタテ養殖)
 鈴木 章登(カキ、ホタテ養殖)
 吉田 久義(ホタテ養殖)
 小松 勝典(大島漁協・カキ、ホタテ養殖)
 島山 悦子(ホタテ、ホヤ養殖)
 斎藤 孝正(松岩漁協・ワカメ、コンブ養殖)

○青年漁業士

阿部 松之助(歌津町漁協・ホタテ、ホヤ養殖)	須藤 勉(志津川町戸倉漁協・ワカメ養殖)	木下 哲夫(河北町漁協・定置網、刺網漁業)	坂下 清子(カキ養殖、刺網漁業)	大和 久男(雄勝町東部漁協・ワカメ養殖他)	秋山 統平(雄勝町雄勝湾漁協・ホタテ養殖)	鈴木 典子(女川町漁協・カキ養殖)	阿部 悟(石巻市東部漁協・カキ養殖、漁船漁業)	武田 喜一(石巻地区漁協・カキ養殖、定置網)	阿部 喜久男(石巻地区漁協・カキ養殖)	渡辺 金一(石巻湾漁協・ノリ養殖)	阿部 健一(鳴瀬町漁協・ノリ養殖、定置網)	熱海 正春(宮戸西部漁協・ノリ養殖)	小野 仙一(種ガキ養殖、採介藻)	八木 重義(ノリ養殖、採介藻)	尾形 文秀(ノリ養殖)	山内 良裕(ノリ養殖)	山内 典子(ノリ養殖)	
阿部 正(歌津町漁協・ホタテ、ワカメ養殖)	高橋 陽一(雄勝町東部漁協・ホタテ、ワカメ養殖)	佐藤 一(雄勝町雄勝湾漁協・ホタテ、銀ザケ養殖)	末永 寿夫(ホタテ、カキ養殖)	伊藤 文彦(ホタテ養殖)	平塚 喜市(石巻市東部漁協・カキ養殖)	伏見 薫(石巻地区漁協・カキ養殖)	渡辺 悟(カキ養殖)	渡辺 正之(女川町漁協・カキ養殖)	渡辺 浩之(塩釜市浦戸東部漁協・カキ養殖)	尾形 一彦(宮戸漁協・ノリ養殖)	川畑 栄彦(塩釜市浦戸東部漁協・カキ養殖)	後藤 修(亘理町漁協・小型底曳網漁業)						

また、交付式では、今回認定された漁業士代表として、阿部正春指導漁業士と島山悦子指導漁業士から「漁業者の高齢化、後継者問題と明るい話題が少なくない中、宮城の水産業のために力としていきたい」「宮城県第一号の女性漁業士としての責任の重さを感じている。女性ならではの活動に取り組んでいきたい」とこれからの活動に対する抱負が述べられました。



認定証交付式出席者と記念撮影

交付式終了後には県と漁業士会共催の意見交換会が行われ、宮城県漁連の阿部会長、漁業士の鈴木会長から激励の言葉をいただいたほか、渡辺次長が講師として基調講演「水産業を巡る動き」が行われました。また、鈴木会長が座長となつた意見交換では漁業士活動に対する意識や水産物消費拡大のための考え方などについて活発な意見が交わされました。

岩手県漁業士会大船渡支部との交流会について

(宮城県漁業士会北部支部)

岩手県漁業士会大船渡支部との第二回目の交流会が、平成十二年八月二十四日に陸前高田市「キャピタルホテル」1000を会場に開催されました。北部支部十七名、大船渡支部十四名、合わせて三十一名の漁業士が参加し、親交を深めました。まず全員の自己紹介の後、両支部の活動報告を行いました。大船渡支部からは、中国へのワカメ養殖事情の視察研修について、ビデオを交えて報告されました。岩手県では海外研修は初めてのことですが、大船渡支部から十五名の漁業士が参加したそうです。



大船渡支部の皆さんと記念撮影

新役員紹介

平成12年6月13日に開催された通常総会において選任された新役員を紹介します。

なお、任期は2年です。

会長

鈴木 直光 (塩釜市浦戸東部漁協)

副会長

菅原 勝 (志津川町漁協)

伏見 真司 (石巻地区漁協)

理事

鈴木 章登 (唐桑町漁協)

及川 淳宏 (本吉町漁協)

佐々木 克弥 (北上町十三浜漁協)

阿部 悟 (石巻市東部漁協)

木村 喜久雄 (鳴瀬町漁協)

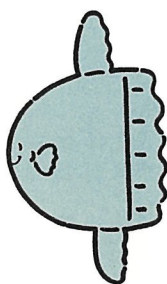
菊地 幹彦 (亘理町漁協)

監事

阿部 長喜 (歌津町漁協)

高橋 文生 (石巻湾漁協)

門馬 幹彦 (宮戸漁協)



北部支部からは、香川県への視察研修について、鳴瀬漁協の力による食のテーマ度、牟礼漁協の力による阿部大松の指導漁業士が報告し、人が多く、両漁協の取り組みに参加者は関心を寄せていました。売り、ワカメ、カキ共輸入が増加して、る方も考え物を作らなければならず、その難しさを伝えることができれば、で感づいておられることを皆肌で話の結びつきが大切だということなが、これからも年一回の交流会を続けていきたいと思います。

○北部地区イベント紹介○

十二月	十一月	九月	八月	七月	五月	四月
志津川町 本吉町 本吉町	唐桑町 気仙沼市	志津川町 気仙沼市	本吉町 歌津町 気仙沼市	歌津町 志津川町	志津川町 気仙沼市	気仙沼市
り 志津川湾おすばてまつり 大谷大漁市 鮭の一本釣り体験	気仙沼市 リアス牡蠣まつり 大島秋の大漁まつり 黄金海道海のバザール 志津川町産業フェア まつり 気仙沼・本吉地方産業大会	日本一腕力自慢綱渡り大会 気仙沼みなとまつり 歌津恋来い浜まつり 志津川湾夏まつり うたつほやまつり	南三陸潮騒祭り 気仙沼つばきマラソン うたつほやまつり			

宮城県漁業士会報 「海人」第4号

発行 平成13年1月

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目8番1号

(宮城県産業経済部産業人材育成課内)

TEL 022-211-2764

FAX 022-211-2769

編集委員

編集委員長 菅原 章
北部委員 阿部 門馬
南部委員 勝登 悟彦

原稿募集について*

海人では、皆様の意見を掲載するコーナーを作りたいと考えています。漁業士会に対する色々な意見や自分の仕事の紹介、地域活動の紹介など、自由な内容で四〇〇字程度にまとめ、漁業士会事務局まで送付してください。原稿と一緒に写真を送付してください。写真は後日返却いたします。写真は後日返却いたします。写真は後日返却いたします。